



R334 heitaku

様式第1号 (第5条、第7条関係)

事業者取組計画書

令和4年8月8日

鳥取県知事 平井 伸治 様

届出者 住所 鳥取市東町一丁目220番地

氏名 鳥取県
鳥取県知事 平井 伸治
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

鳥取県地球温暖化対策条例第8条第1項の規定により次のとおり提出します。

住所 (主たる事業所の所在地)	鳥取市東町一丁目220番地				
氏名 (名称及び代表者の氏名)	鳥取県 鳥取県知事 平井伸治				
主たる業種	98 地方公務				
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者				
計画期間	令和4年4月 ~ 令和7年3月				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (R3(2021)) 年度 (二酸化炭素換算)	目標年度 (計画) (R6(2024)) 年度 (二酸化炭素換算)	増減率	
	排出量 (1)	21,939.8 t	21,281.5 t	△ 3.0 %	
	目標設定の考え方	「エネルギーの使用の合理化等に関する法律 (省エネ法)」による事業者の目標に準拠 (中長期的に見て年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減)。			
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率
	都道府県事務	二酸化炭素換算 延床面積	0.042 t-CO2/m ²	0.040 t-CO2/m ²	△ 3.0 %
	下水道処理施設維持管理業	二酸化炭素換算 ポンプ揚水量	0.38 t-CO2/m ³	0.37 t-CO2/m ³	△ 3.0 %
		二酸化炭素換算			%
原単位の目標設定の考え方	延床面積及びポンプ揚水量を原単位として、各3%の温室効果ガス排出量の削減を目指す。				
寄与的取組	取組区分	目標年度 (計画)		/	
		実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(売電量)	kWh		t
		(熱供給量)	GJ		t
	再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)			t
	森林保全による二酸化炭素の吸収量を表すものの購入	-	-		t
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)			t
削減量等合計 (2)			0.0 t		
差引排出量 (1) - (2)	基準年度 (実績)		目標年度 (計画)	増減率 (計画)	
	21,939.8 t		21,281.5 t	△ 3.0 %	

推進体制	①ノー残業デーを設け、勤務時間外の節電対策を実施している。 ②各所属ごとに環境推進員を配置し、省エネ等に関する職員研修、取組状況の点検、検証を行っている。 ③夏期（7月～9月）は湯沸器の使用時間を削減（午前からの運用）している。 ④庁舎内照明の省エネ化（LEDの導入等）を順次進めている。		
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容
	R4年度	畜産試験場、鳥取放牧場、倉吉体育文化会館など	照明設備のLED化
	R5年度	布勢総合運動公園（陸上競技場）、鳥取産業体育館、大山放牧場など	照明設備のLED化
	R6年度	布勢総合運動公園（体育館）、県民文化会館、夢みなどタワーなど	照明設備のLED化
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	ノーレジ袋、ノー残業デー、ノーマイカーデー等の取組を行い、職員が日常的に環境配慮活動に取り組んでいる。		
特記事項			

- 注1 該当する□には、レ印を記入してください。
- 2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。
- 3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。
- 4 主たる業種には、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。
- 5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
- 6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
- 7 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用などを記入してください。